

【保土ヶ谷区】令和3年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年6月11日 午前10時00分 ~ 午前11時45分
場 所	保土ヶ谷区役所本館4階 401会議室
出席者	<p>【座 長】 磯部 圭太 議員 【議 員】 斉藤 伸一 議員 青木 亮祐 議員 森 ひろたか 議員 北谷 まり 議員 【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長 小林 仁 副区長 岩井 裕子 福祉保健センター長 金島 幸雄 福祉保健センター担当部長 井上 義晃 保土ヶ谷土木事務所長 小野寺 勝 保土ヶ谷消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none">1 令和3年度保土ヶ谷区運営方針について2 令和3年度保土ヶ谷区編成予算 事業概要及び執行計画について3 その他

議題2 令和3年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について

(1) 多文化共生まちづくり事業について

北谷議員：

「課題や解決策の調査委託」、「多文化共生まちづくり計画の策定」とあるが、調査は始まっているのか。

石川区政推進課長：

調査委託は5月末に個人情報保護審議会を通り、現在準備を進めている。

北谷議員：

調査の期間、計画の策定の見込みを教えてください。

石川区政推進課長：

調査期間は夏ごろまで、計画の策定は今年度中を見込んでいます。

発言の
要旨

(2) ICT活用支援事業について

北谷議員：

「区民利用施設のICT環境の整備」とは具体的にどのようなものか。区民利用施設ではWi-Fiが整備されていない場所もあると聞いたのだが、どのような状況か。

石川区政推進課長：

自宅にパソコン等がない方でもweb会議に参加できるように、地区センターやコミュニティハウスなどの区民利用施設に館内貸し出し用のタブレット端末の配備、モバイルWi-Fiルーターのリースを検討している。

北谷議員：

区民の方から区民利用施設ではWi-Fiは使えないのか、と尋ねられることがある。いつごろから利用可能になるのか。

石川区政推進課長：

今後、配備して周知を行っていく。できるだけ早く進めていきたい。

齊藤議員：

時期についてももう少し具体的に言及してほしい。

石川区政推進課長：

施設側との調整の中で課題が出てきている。課題とその解決方法を確認し、できるだけ早く手続きを進めたい。

(3) 障害者地域支えあい連携推進事業について

北谷議員：

「障害者施設の自主製品販売の販路確保を支援する」とあるが、どのような支援を行っているのか。作業所からは、コロナ禍の状況で製品がなかなか売れないと相談をいただいている。

齋藤高齡・障害支援課長：

区役所1階のスマイルガーデンは、昨年度から緊急事態宣言の発令・解除に沿って中止・再開をしている状況。今年5月からは月10日くらいで始めている。ワクチン接種の進捗状況によるが、当事者の方が直接販売できる体制づくりまでは少し時間がかかると思っている。

販路拡大については、スマイルガーデンほどがやの作業所製品を掲載したパンフレットを3000部作成し、区民利用施設などでの配架を予定している。また、市のホームページにも掲載して多くの方に知っていただくよう取り組んでいる。コロナの状況が落ち着いてきたら、民間の販売店など多くの方が利用する場所で販売できるようなツールについて、区役所としても努力していきたい。

北谷議員：

カタログに掲載することができていない作業所がたくさんある。区役所のスペースを活用して販売できる機会が増えるとよいので、検討してほしい。

(4) 災害対策推進事業について

森議員：

感染症リスクへの対応で、「補充的避難所の具体的運用に向けた施設管理

者や地域との協議」とあるが、現状区内で補足的避難所の協定を結んでいるところは何か所あるのか。

中山総務課長：

保土ケ谷区の補足的避難所は 16 か所となっている。

森議員：

補足的避難所は発災してから市・区の職員が現地に行って開設するものだが、帰宅困難者一時避難場所などは施設管理者が独自に開くことができ、かつ市からも避難物品が事前に配布される。共助という意味では帰宅困難者一時避難場所の拡充も必要なのではないかと認識している。区としてはその点をどのように考えるか。

小林副区長：

帰宅困難者一時滞在施設は、一時的に待機・避難していただく場所として勤め先の近くに確保する目的で、例えばパシフィコ横浜や横浜アリーナが指定されているが、震災のときには周辺のみならずホールなどの施設も協力したことがある。保土ケ谷区では、区民だけでなく、都心臨海部や横浜駅からさらに西の方に帰宅する方が、家屋倒壊などの少ない国道 16 号を通ると思われるが、16 号沿いにそういった協力事業者があればご協力いただきたい。

それと同時に、コンビニエンスストア等のトイレや給水場所の確保などにご協力いただける施設の拡充も危機管理室からお願いしている。星川周辺にお勤めの方もいるので、区としても一時安全に避難できる場所が確保できれば良いと考えている。

森議員：

今後分散避難が重要なポイントになってくる。そもそもの避難所、補足的避難所、帰宅困難者一時避難場所、いっとき避難場所など、役割は違うが整備しておくことで、住民の方も働かれている方も含めて安全に避難ができると考えている。ぜひ区としても多方面の検討と避難場所の確保をお願いしたい。

いっとき避難場所については、先日川島第4町内会が、環状2号線高架下の5か所を避難場所に指定したと聞いている。また地元を中心に民間企業とのいっとき避難場所の協定も進めていると聞いている。地元が主体的に避難場所を確保していく動きは非常に良い。

一方で、区としていつとき避難場所については、発災した時にどこにどのように皆さんが避難しているのかを含めて、危機管理として把握をしていく必要がある。現状はそこまでの把握に至っていないと聞いているので、今後、各町内会と連携して、そういった場所の把握も是非お願いしたい。

中山総務課長：

各地域によって特性が違うので、それぞれの特性に合わせて区役所としても支援していきたい。

議題3 その他

(1) 相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業について

青木議員：

片側が先行して高架化した時点で、地元周辺の皆様から騒音が気になるという意見をいただいております、上下線が高架化を済ませた時点で、改めて環境影響評価をするようにと以前から要望していた。今回、環境対策を実施するということが、環境影響評価の結果はどうだったのか。

梅津道路局建設課鉄道交差調整担当課長：

高架化後、騒音の状況を確認するために、環境影響評価の予測地点で試行的に騒音レベルを測定している。測定した一部の地点で、予測値よりも若干高い結果が出たことを確認した。今回説明した環境対策工事を実施することによって、列車走行に伴う騒音を確実に低減できると考えている。環境対策工事実施後、環境影響評価の事後調査計画書に基づく供用後の調査を実施する予定。

青木議員：

しっかりと対策を講じ、地元で丁寧な説明をしてほしい。

次に、天王町の駅前広場について、環状1号線沿いの客待ちをしていたタクシーが、警察からの指導を受けて待つことができなくなってしまった。地元においても何とかタクシープールができないかと、設置の要望があがっているが、実際どのくらい前からタクシープール設置の要望があったのか。

桐山道路局企画課長：

およそ平成 26 年ごろから話をいただいている。

青木議員：

再整備のタイミングで、長年の懸案事項の一つが解決したことは、局や区の努力の積み重ねだと思っている。率直に感謝を申し上げたい。

最後に、旧東海道にふさわしい駅前整備を進める中で、魅力的な空間になるよう進めていくとあるが、具体的にはどのようなイメージなのか。

桐山道路局企画課長：

現在、連続立体交差の事業で仮囲いをしているため、駅前が非常に狭くなっているが、駅前広場の整備により、駅を出た直後に開放的な空間を作っていく。また、東海道の道筋でもあるので、その前後の区間の景観に合うよう、路面の一部を、鉄平石という趣のある舗装をするなど、東海道にふさわしい景観を作っていく。

さらに、タクシー乗り場の件も含めて、扱いやすい駅前広場になるよう努めたい。

青木議員：

地域の利便性ということにも視点を置いて、なるべく早く整備ができるようお願いしたい。

また、これは区への要望だが、星川～天王町間、いわゆる商業施設が入らない駐輪場の先の部分のスペースが、保土ヶ谷にとっては珍しく平らな土地になっている。ぜひ有効利用をするように、まずは区から様々なアイデアの提案をお願いしたい。

森議員：

天王町駅の YBP 口側の、天王町 3 号踏切から 1 号踏切までの間の交差点部分に道路局が道路灯の設置をすると聞いている。一方で、地元からは、駅に向かうための生活道路になっているため歩行者もかなりいると聞いている。夜間を中心とした歩行者の安全確保という観点から、街灯設置について、街づくり協議会や相鉄に要望しているが、まだ設置には至らないということなので、区にしっかり地元と協議をしてもらいたい。私自身も歩いたが、非常に暗い。特に 2 号から 3 号にかけて非常に暗いので、ぜひ設置に向けて、区としても市民局等に働きかけてほしい。

椎葉地域振興課長：

防犯灯の関係については、自治会の方や市民局とも調整しながら、工事完了後の状態も見つつ行っていきたい。

森議員：

該当の箇所付近には電柱がなく、通常の自治会でつけるような防犯灯はつけられない。自治会負担が大きく非常に苦しい状況が容易に想定できるので、区もしっかり連携しながら対応してほしい。

斉藤議員：

ひとつひとつ着実に形になってきており、今の職員にも、またこれまでやってきた職員にも感謝を申し上げたい。この消音バラストや吸音板も、よく予算を獲得してくれたと思う。また、星川駅南口の広場について、屋根が全部つくということは、ほかのロータリーと比べても、なかなかないことであり、利用者の方も喜ぶだろう。一般車両のスペースもとってあり、大変ありがたい。

一方で近隣にお住まいの方の中には、バスの排ガス、騒音や振動、人の流れが変わることで、防犯の面でも心配をされている方がいる。これから具体的な施工に入っていく中で、周辺の方への配慮について計画に入れることが可能であれば、ぜひお願いしたい。

天王町の方も、特に東海道や保土ヶ谷宿については、市民団体、グループの方も一生懸命やっていたいているため、よく連携を図りながら進めてほしい。

また、天王町のYBP口を拝見したが、通行人がすごく喜んでいて。しかし、東口とYBP口について、二輪車の動線が心配だ。二輪車進入禁止と書いてあるが、押して入ることは可能か。

梅津道路局建設課鉄道交差調整担当課長：

高架下の通路であれば押して歩く分には歩行者と同等なので可能。

斉藤議員：

自転車に乗ったままの方が通ることも予見される。また、一部見通しの悪い場所もあるので、そこは注意喚起をしていただきたい。必要に応じて、

カーブミラーのようなものの設置も検討してほしい。ただし、つけることによって、事故を誘発するようなことがあってもいけないので、そこはよく見極めてほしい。

(2) 旧保土ヶ谷県税事務所跡地活用について

青木議員：

この地区にはない地域ケアプラザや、地域交流スペースの設置など、この建物に対する地元の期待は大きい。解体工事におけるアスベストの処理等大変だと思うが、近隣との関係性はどうか。

小林横浜市住宅供給公社建設課長：

周辺3団体の自治会・町内会の連長と調整を図りながら進めており、工事に関するクレーム等は今のところ出ていない。

青木議員：

この建物は、保土ヶ谷駅東口の未来の再整備の起爆剤となってほしい。そのためにも、十分に近隣の方と調整してほしい。

斉藤議員：

周辺の自治会・町内会と併せて、岩井原など保土ヶ谷駅東口の山の上の地域の方々も多く利用されるので、そちらの方面の声も丁寧に聞いていただきたい。今、ハード面の話があったが、ソフト面でいうと、ケアプラ、地域交流スペース、また区境なので区役所間とのやり取り等、どこが調整役を担っているのか。

萩原都市整備局地域まちづくり課担当課長：

現状は都市整備局企画課で進めているが、将来的には地域のまちづくりの観点から、都市整備局地域まちづくり課で行っていく。先ほど話のあった、地域交流スペース、屋外のスペースの利用については、山の上の方面の自治会・町内会も含めた6町内会や、保土ヶ谷駅東口の商店会の方々と一緒に活用方法を検討していく。

斉藤議員：

保土ヶ谷は宿場町だが、駅を降りてもそれを感じられないと言われるこ

とがある。以前、区政推進課長に、地域交流スペースについて、宿場町という切り口で活用するという事も聞いた。ハードの面では見通しが立ってきたところであるが、そろそろソフトの面でも検討を進めてほしい。

最後に、北側の駐輪場は何台分か。また、利用対象はどのような方か。

小林横浜市住宅供給公社建設課長：

施設利用の方と住宅向けとして、明確に区分けをして上で 38 台分計画している。

斉藤議員：

ケアプラや保育所があるので、アシスト付き自転車を意識してほしい。その点は大丈夫か。

小林横浜市住宅供給公社建設課長：

その点についても含めた上で 38 台分の駐輪スペースを検討している。

(3) 西谷浄水場再整備事業について

森議員：

ちょうど1年ほど前に、シールド工法による相鉄・東急の直通化の工事があつた際、環状2号線が陥没する事故があつた。今回、導水路を通すのは国道16号や水道道が中心となるが、この点についてどのように考えているか。

古川水道局再整備推進課長：

今回施工する水道管のシールド工事は、ご指摘（鉄道）の工事に比べて掘る面積が小さく、十分な深さを確保して工事を行うため、地盤に与える影響は小さいと考えている。また、本工事はDB方式により、事業者からの技術提案で受注事業者を選定しているが、事業者からは地盤変状をモニタリングするなどの提案を受けており、陥没等が生じないように、しっかりとした対策を行っていく。

森議員：

立て坑5か所というのは相当な技術力だと認識している。穴自体は相鉄東急の直通線の工事に比べると小さいものだが、安全な工事に努めてもら

いたい。

(4) 保土ヶ谷区における新型コロナウイルスワクチン接種の状況等について

北谷議員：

区役所にも電話での問い合わせが多くあり大変だったと思うが、非常に残念な対応があったと聞いている。接種券が届いていないということで区役所に電話したところ、「区役所でわかることは住民票があるかないかだけですからコールセンターに電話してください。」と言われ、コールセンターにかけても繋がらない。どうすれば良いのかという相談があった。区としてやれることがあったのではないか。

出口区長：

どの時点での問い合わせだったのかはわからないが、実際に発送業務を担当している部署でないとわからない情報も多いため、コールセンターを案内するのが区としてできる対応だったと思う。予約のコールセンターではなく、問い合わせのコールセンターの状況がその時点でどのような状況だったのかということまで把握しきれなかったということもある。

北谷議員：

5月の段階では全体的に混乱していたため、そういう状況だったのかもしれないが、接種券が届いていない方はまだ市全体で数千件あると聞いており、身近な区役所にまずは連絡するというのが一般的だと思う。

5月はそのような対応だったかもしれないが、現状はどういう対応になっているのか。これから64歳以下の接種券の発送が始まるが、またそのような問題が発生する可能性がある。

出口区長：

発送作業を行っている部門がデータを持っているため、届かない案件について個別に区で調査するのは難しい。できる範囲のことは区でも対応するが、担当する部署におつなぎするしかないケースもある。

北谷議員：

今後6月16日に広報よこはま特別号の発行があるが、新聞折り込みで

配布すると新聞を取っていない方には届かない。皆さんにもれなく届くような対応が必要だが、どのような対応を予定しているのか。

中山総務課長：

6月の区連会で、自治会町内会長経由で周知をお願いするほか、地域ケアプラザや地区センターでも配架している。地域ケアプラザ等の職員には、ワクチン相談全般にご協力いただき、ご案内もしてもらっている。

北谷議員：

高齢者の予約・接種について、6月9日の記者発表資料で見込みの予約状況が出てはいるが、例えば老々介護や在宅療養などで、自分で予約をする、接種に出掛けるということが困難な方がまだまだたくさんいる。是非そういう困っている方、取り残されてしまっている区民・高齢者のために、何か手立てをとってもらえないか。例えば地域担当の職員を中心に地域の状況を民生委員やケアマネなどから聞き取り、きめ細やかな対応をしていただきたい。

出口区長：

我々もそういったことを一番心配しており、まさに区がやっていなければならぬことだと感じている。なかなか声を上げられない方や半ば諦めている方もいると思うので、少し積極的に出ていく必要があると思っている。具体的なことはまだ検討中だが、やはり地域の方々、民生委員さんやケアマネさんにご協力いただき、接種に関して声かけをいただくようなことを、ある程度組織だって対応することができたらと考えている。

北谷議員：

是非ご検討いただいて、取り残される方がいないようにしてほしい。

こういうときこそ、「ほっとなまちづくり」の役割が重要じゃないかと思う。

檜崎福祉保健課長：

新型コロナウイルスワクチンの件に関しては、地域ケアプラザや民生委員の皆様にはタイムリーに情報を流すようなルートを確保している。個別接種を行っている協力医療機関名や予約や接種ができる曜日なども丁寧

にご説明いただくようお願いしている。

今お話があったとおり、まさにこういったつながりづくりが、ほっとなまちづくりに欠かせない点であり、色々なルートやツールを使ってタイムリーに情報がいきわたるようにしていきたい。

北谷議員：

取り残されてしまう方がいないように、区役所にフィードバックしてもらうなどの工夫をしてほしい。区役所の力添えというのはとても大きいと思うので、是非よろしくお願ひしたい。

齊藤議員：

先ほどの接種券が届いていない件は、ご本人からすれば相当心配なこと。我々の会派では、それぞれの議員が様々な相談をいただくが、それぞれが局に問い合わせするのではなく、だれか一人決めて問い合わせするなどして、局の負担を少なくしようとしている。

例えば、接種券が届かない件に関しては、局とのホットラインを作っておき、案件によっては区役所で一度預かって対応するようなことも検討してほしい。区役所によろやく電話がつながったと思ったのに、またつながらないコールセンターに戻されるというのは気持ちの面でもどうか。

案件によっては区と局でやりとりできる体制を作っていただくことも是非考えていただきたい。

備 考